

(令和6年度) 自己評価書		園番号	園名	710高円こども園					
		710	高円こども園						
大項目	中項目	小項目	具体的評価項目及び指標	取組と成果	評価		評価の観点・理由	課題及び改善方策	
I 教育・保育活動に関するもの	(1) 教育・保育目標/計画	① 教育・保育目標の設定	・園の教育目標「心身共に健康で、人間性豊かな、たくましく生きる子どもの育成」を目指し、年間計画を作成し教育活動の評価をする。 ・目標達成のために、計画を見通しながら子どもの生活や遊びの姿の見取りや分析を行うと共に、保護者の評価から検証する ・保護者に園評価アンケートを実施し、保育・教育活動の検証を行う。	・各学年の子どもの成長・発達を的確に捉え、現状を見据えながら個々の発達段階に応じた援助を行い、教育・保育内容を検討し、深めることができた。 ・アンケートを実施し、保護者や学校評議員から評価を得ることができた。	A	B	・教育計画・園目標に基づいて、子どもの園生活や遊び、行事に教育目標を達成できるように意識して取り組むことができたかどうか。 ・アンケート結果から、教育活動の取り組みが、保護者や地域から評価を得ることができた。	・次年度に向けて、本年度の課題を明確にし、研究主題のテーマに基づき保育内容の具体的な実践について、職員全体が共通理解するための会議を定期的に関き、職員同士が学び合いながら保育実践していく。	
		② 教育・保育計画の作成			B				
		③ 教育課程/全体的な計画の編成			B				
		④ 教育・保育活動の評価			A				
	(2) 教育・保育内容/指導	① 指導計画の立案	『おもしろい』『またやりたい』と心を動かし、意欲的に遊ぶ子どもを目指して～豊かな環境と人との関わりの中で～を研究主題として取り組み、2年度の取り組みとして教育・保育の質の向上を図る。 ・子どもの実態を把握し、職員間の連携や共通理解を図りながら教育・保育環境の工夫・改善を行う。	・研究主題2年目として、乳幼児の発達や課題に応じ、具体的な遊びや環境や、保育者の援助の在り方に重点を置き取り組んだことで、子どもが継続して意欲的に遊ぶ姿に繋がった。 ・0歳児から5歳児の発達や、実際に子どもが遊びに取り組む姿を共通理解し、乳児期から幼児期に繋がる保育を探り、職員間の連携を図りながら、保育・教育内容の充実に努め成果が見られた。	A	A	・指導計画を基に、ひとりひとりに応じた指導に努め、育ちに繋がる援助のあり方に留意し保育を進めることができたかどうか。 ・職員が子ども一人一人の育ちを見取り、記録しながら具体的な保育内容を探り、子どもの成長発達に繋げることができた。 ・各クラスの保育環境に変化が見られ、子どもの豊かな経験に繋がった。	・子ども一人一人の理解に繋がるよう、日々の振り返りを行い、教育・保育内容や環境・援助の在り方について検討し、質の向上を目指していく。 ・カリキュラム会議等を通し、職員同士が助言をし合いスキルの向上を目指す。	
		② 保育内容の精選			A				
		③ 指導方法の工夫改善			B				
		④ 評価			A				
	(3) 園行事	① 指導計画の立案	・園・家庭・地域が繋がることができる園行事を構築し、より豊かな経験が出来るようにする。 ・前年度の反省・評価を踏まえ、子ども達の豊かな経験となるよう、新たな実施方法を検討しながら進めていく。 ・子どもが主体的に取り組み、豊かな経験ができるようにする。	・職員間で共通理解し、行事の企画、運営を担当者が核となり工夫して取り組みを進めることができた。 ・園庭やグランド等、実施場所を踏まえ、安全に多くの方に参加してもらえることが出来る実施方法を検討し、前年度より多くの方に参加してもらえる行事を進めることが出来た。	A	A	・園行事が子ども達にとってどのような学びになるのかを検討し、望ましい行事の構築に努めることができたかどうか。 ・より良い新たな行事の運営を検討しながら子ども達が意欲的に取り組み、成長に繋がる機会となった。	・運動会は幼児クラス一斉開催を実施し、新たな方向性を見出せたので来年度は更に良いものとなるように検討しながら進めていく。 ・各行事に対して実行委員制を取り入れ、計画的に進めていく。 ・日々の遊びと行事が、繋がりのあるものとなり、子ども達のより豊かな経験となるよう内容を検討していく。	
		② 行事内容の精選			A				
	(4) 人権教育	① 人権教育指導計画の立案	・家庭支援推進保育士が核となり、人権教育指導計画を立案し、取り組みを進める ・一人一人の生活背景や課題を把握し、子どもや保護者に関わる。 ・一人一人を大切にする視点を大切にし、人権意識を高められるような取り組みを推進する。	・日頃より職員間で情報交換を行い実態把握、指導内容について検討する。 ・担任、長時間担当、家庭推進保育士、保護者が連携を図り、子ども・家庭理解を深め取り組んだ。 ・家庭支援推進保育士を中心に、友達や命の大切さを伝え、意識の高まりが見られた。	A	A	・こども園が子ども一人一人にとって安心・安全な居場所としての役割を果たせたか。 ・人権意識を高めることが出来る取り組みができた。 ・園生活の中で、相手を思いやる気持ちが育ってきている。	・子どもや家庭の実態把握に努め職員間で共有に努め、指導や支援につなげる。 ・子ども同士が認めあえる人的環境を作ると共に、教材研究も深め一人一人の人権を大切にする心を育てる教育・保育を進めていく。	
		② 保育内容の精選			A				
		③ 指導方法の工夫改善			A				
	(5) 生徒指導	① 組織的な指導	・各クラスの実態を出し合い、家庭支援推進保育士と連携し、園全体で指導の手立てを共通理解し取り組む。 ・一人一人の幼児や保護者の思いに寄り添う。 ・個人情報に配慮しながら連携に努める。	・関連機関と連携を図りながら、必要な支援や援助を行うことに努めた。 ・登降園時等に子どもや保護者に声をかけ、信頼関係の構築しながら相談にのるなどして連携を図った。 ・課題をクラスのみで抱え込まないよう、園内連携を重視し、必要に応じて関わった。	A	A	・迅速で組織的な対応、職員間の連携を図っている。 ・保護者と信頼関係を構築し子どもについて情報を共有に努めた。	・配慮が必要な幼児、保護者への適切な対応をさらに強化する。 ・保護者との信頼関係が更に深まるよう、日々の声掛け、関わりを大切に積み重ねる。	
		② 教育相談・幼児理解			A				
		③ 家庭との連携			A				
		④ 関係諸機関との連携			A				
		⑤ いじめ・児童虐待問題について		・対処方針や指導計画が明確である	・虐待・ネグレクト等が疑われる状況がある場合、関連機関と連携を図り迅速な対応を行う。 ・市や学校や地域等と連携し、情報を共有し迅速に対応を行った。 ・気になる様子が見られた時には、丁寧に記録を取り関係機関との連絡を密に取り対応に当たった。	B	A	・子どもの様子について職員間で常に情報交換し、気になる実態について複数の職員と確認したり、保護者や関連機関との連携など迅速に対応してきた。	・子どもや保護者の様子の変化を注意深く見守り、職員間で情報を共有し、必要な場合は迅速に適切な対応を強化する。 ・関係機関との信頼関係を強化し、情報共有しやすい体制を強化する。
				・日頃より実態把握・早期発見に努めている		A			
				・各学級の状況を園組織として共有できている		A			
・保護者や地域と連携できている				A					
・組織的に迅速に対応する体制が整備されている				A					
(6) 特別支援教育	① 推進体制	・支援が必要な子どもの特性や発達、支援方法について職員間で共通理解する。 ・必要な幼児には個別の指導計画を作成する。 ・特別支援教育コーディネーターと連携しながら、一人一人に応じた支援を検討し実践する。 ・保護者と連携し、子どもの姿を共に見守り園生活を安心して過ごせるようにする。 ・関係機関と連携を取りながら、育ちを支えていく。	・教育支援・相談課、子どもセンター、療育機関等と連携を図り、一人一人に応じた援助・指導が出来るように努めてきた。 ・子どもの特性理解に努め、具体的な援助や環境構成について検討し、保育内容の向上に繋がり、子どもの過ごしやすさや成長に繋がった。 ・支援が必要な児について、安心して就学に向かえるよう、連携を積極的に取り適切な就学に導けた。	A	A	・一人一人の課題について、職員が共通理解のもと、指導に当たるように努めた。 ・支援を必要とする子どもが多く、一人一人に対しての関わりや、クラス全体での取り組みについても検討し、取り組むことができた。 ・保護者に寄り添いながら、子ども理解の促進に努めた。 ・小学校等への連携を積極的に行った。	・成長発達に応じた援助や環境構成をさらに探り、集団の活動の中で特別支援を要する子たちの安心できる居場所作りと、分かりやすい環境構成を推進していく。 ・個別の指導計画を活用し、職員間での理解を深めると共に、評価・反省を繰り返して、次年度に繋げる。 ・適切な就学に繋げるよう、関係諸機関との連携を積極的に取っていく。		
	② 個々に応じた特別支援教育の内容			A					
	③ 指導方法の工夫改善			A					
	④ 家庭との連携			A					
	⑤ 関係機関との連携			A					

(令和6年度) 自己評価書		園番号 710	園名 高円こども園	710高円こども園				
大項目	中項目	小項目	具体的評価項目及び指標	取組と成果	評価		評価の観点・理由	課題及び改善方策
Ⅱ 園 経 営 に 関 す る も の	(１) 組織運営	① 園長のリーダーシップ	・園の教育ビジョンや園運営を伝え、リーダーシップを発揮すると共に、職員一人一人の指導力が最大限に発揮できるようにする。 ・職員会議を計画的に取り入れ、職員相互の意思疎通を図り共通理解を深める。 ・職員一人一人が生き生きとやりがいを持って取り組み、また、全職員が協力・協同して、課題解決に取り組める職場の環境作りに努める。 ・園評価を実施し、次年度に繋げる。	・教育ビジョンを作成し、具体的な取り組みを職員や地域の方に説明した。 ・園教育目標・研究主題について共通理解を図り、目標に向かって進むことができた。 ・日々の朝礼や、必要に応じて随時連絡、報告、相談を取り入れ、全職員が共通理解を図れるように努めた。 ・教育と保育の繋がりを重視した実践を目指し、園運営が図れるよう組織作りに努めた。	B	B	・全職員で園ビジョンを共有し園長のリーダーシップのもと取り組むことができたかどうか。 ・職員それぞれが各担当した役割を果たすことができているのかを見直しながら取り組むことができた。 ・全職員が協力し合い、良い人間関係の中で運営することが出来た。	・担任・長時間担当・支援担当等それぞれの役割がある中で、報告・連絡・相談を密にし、園の職員として同じ方向を向いき、より良い取り組みが出来るようにする。 ・目標・方向性を明確に示し、人間関係を築きながら園運営がスムーズに行えるように取り組む。 ・一人一人の職員が自分の取り組みに自信を持って向かえるようサポートをする。
		② 園経営目標・方針			B			
		③ 職員の適正配置と運営への参加意識			A			
		④ 園務分掌等の連携			B			
		⑤ 会議の運営と位置づけ			A			
		⑥ 会議の結果			B			
		⑦ 職場の人間関係			A			
		⑧ 園評価の実施			A			
	(２) 研究・研修	① 資質の向上をめざした組織的・計画的な園内研修の実施	・園内研修を実施したり、園外研修への参加に努め、保育等指導や適切な援助のあり方を相互に研修し合い、保育実践に活かせるようにする。 ・園外の研修やリモート研修に自主的・意欲的に参加する。 ・園研究主題に即した園内研修を実施する。	・園内公開保育を実施し、カンファレンスを充実することで環境改善、教材研究、援助のあり方について学ぶことができた。 ・ウェブマッピング方式を取り入れた新たなカンファレンスを行いより深い子ども理解に繋がった。 ・研修主題のまとめに繋がる園内研修を実施し、職員自身が取り組みの意義や成果を振り返る機会となった。	A	A	・園内研修会を計画的に実施することで保育改善に繋がり実践に繋がった。 ・子どもの発達に即した環境改善を行うことが出来た。 ・子どもの姿を分析・記述することで指導のあり方や子どもの発達過程を共通理解することができた。 ・保育者の援助のあり方に重点を置き取り組みんだことで、子どもの姿に変化が見られた。	・計画的に園内研修会を企画し教育、保育の見直しが常に図れる環境を作って行く。 ・資質向上を目指し、研修参加するなど自己研鑽できるような体制を作っていく。
		② 保育改善を目指した保育研究・実践の実施			A			
		③ 園外の研修への積極的参加			A			
		④ 園外研修内容の共有			B			
		⑤ 研修成果の普及			A			
	(３) 安全管理	① 安全計画の立案	・避難訓練の計画を立案し、様々な場面を想定して実施する。 ・危機管理マニュアルを再認識し災害時は、迅速に行動できる体制を整える。 ・地域と連携し、防災教室・交通安全教室・消火訓練等を計画し実施する。	・年間計画に基づき、様々なケースを想定し、毎月の避難訓練を実施した。 ・緊急時、子どもの安全確保の為の職員の体制や、対処の仕方について話し合いを重ねた。 ・引き渡し訓練を実施し、課題を見出し今後に繋ぐことが出来た。 ・地域の防災クラブと連携し、防災教室を実施し子どもに防災についての知識を伝えた。	A	B	・園児に自分の身を守るための行動をわかりやすく伝えることに努めた。 ・子どもの安全確保のための職員の意識向上を目指し、災害時の職員の動線について全職員で確認し適切に動けたかどうか。 ・様々な状況を意識し訓練を行い防災意識を高めることができた。	・職員は、常に危機管理意識を持ち、引き続き子ども達の安全対策について検討し、安全対策を確かなものにする。 ・訓練を身近なことと捉え、声をかけあい協力し合って対応できる力をつけていく。
		② 防災計画の立案			A			
		③ 危機管理体制の整備			B			
		④ 安全指導の工夫改善			B			
		⑤ 家庭との連携			B			
		⑥ 関係機関との連携			A			
	(４) 保健管理	① 保健計画の立案	・健康安全な生活に必要な習慣や態度が身に付くよう、家庭と連携を大切にしながら指導に努める。 ・日々の健康観察をし、水分補給や検温、体温調節ができる環境、運動量の調節等を配慮し、全職員で子ども達が健康で安全に過ごせるようにする。 ・園医や薬剤師、看護師等と連携し、衛生管理に努める。 ・アレルギー対応を徹底する。	・保健指導や健康管理に努め、園児が自分の身体の安全や健康を意識しながら必要な習慣が身につくようにした。 ・手洗い・うがいなど継続して指導してきたことで、年齢に応じて感染対策を身につけることができた。 ・食事提供については、衛生管理、アレルギー対応に取り組み、安全な提供が出来た。	B	B	・子どもが自分の健康について意識を持てるように、指導方法を工夫することができたか。 ・感染拡大防止に向けて、継続して取り組みを行った。 ・安全な食事の提供に取り組めた。	・園児、職員の健康管理、安全管理を常に心がけるようにする。 ・手洗い・うがいの徹底や室内の換気・湿度・温度等衛生面の環境整備について引き続き管理を行う。 ・納入からの品質管理を徹底し、引き続き安全な食事提供を徹底する。
		② 心のケアや健康相談の体制の整備			B			
		③ 健康観察、健康管理能力の育成			A			
		④ 関係機関との連携			B			
		⑤ 昼食の衛生管理			A			
	(５) 地域との連携	① 園情報の発信	・地域の会合や催しに参加し、園の取り組みについて伝え、理解していただけるよう努める。 ・保護者、地域、小学校、中学校との連携に努める。 ・学校評議委員会を開催する。 ・地域の会議や地区の社会福祉協議会等の会合に参加し、連携を深める。 ・園だより、クラスだより、園内掲示、ホームページ等で園児の様子や取り組みを発信する。	・園の様子をおたよりやホームページ、ドキュメントで発信し、保護者や地域との連携に努め、園の保育・教育の理解に努めた。 ・学校評議委員会を実施し、園の様子を伝えたり、評価を行った。 ・地域の秋祭り・人権フェスタ等、地域の行事に参加し、地域に根差した園として信頼関係を深め、園に協力をいただける関係の構築に努めた。	A	A	・園の保育・教育内容や活動の様子を適切に情報発信できているかどうかを、常に確認し見直しながら進められたかどうか。 ・地域に根差した園として、連携を深めながら協力体制を維持できた。 ・地域会議に多数参加し、関係機関と情報交換を行い、園運営に活かしていくことができた。	・園の保育・教育内容の発信に努める。 ・今後も地域との交流を大切にし、信頼関係を深めながら子どもの育ちに繋がる取り組みを進めていく。 ・引き続き、地域の教育力を活かし、子どもの豊かな経験に繋いでいく。
		② 園(保育)公開			A			
		③ 小学校との接続・連携			A			
		④ こ幼保との連携			A			
		⑤ P T A ・保護者会の活性化			A			
		⑥ 地域教育協議会との連携			B			
		⑦ 学校関係者評価の実施			A			
	(６) 施設・設備	① 保育環境の整備	・園内環境の整備を行い空間の有効活用をしていく。 ・施設点検を行い、危険箇所・修繕箇所の整備を行う。	・季節や発達年齢、遊びに応じた園内環境の見直しをし改善に努めた。 ・園内設備の点検をこまめに行い、必要な修繕を行った。	A	B	・園内の環境が安全で発達や遊びに合わせた構成となっているのか常に見直す。 ・園児が安心・安全で過ごしやすい保育環境を整えることができているか。	・今後も安全性を確保する為、定期的に点検を徹底し、課と連携しながら安全な保育環境作りに努める。
		② 施設設備の有効利用			B			
		③ 施設設備の管理			B			
	(７) 情報管理	① 公文書の收受・保管	・情報管理について、全職員で共通理解をし、万全を尽くす。 ・個人情報の取り扱いには十分に留意し、管理と保護は徹底して行う。	・個人情報の漏洩、紛失が起こらないように細心に注意をするように全職員に注意喚起し、意識の向上を図った。 ・記録媒体の持ち出しの管理の徹底を図った。	A	A	・情報漏洩対策、記録媒体の管理など職員の意識が向上したか。	・職員が常に危機管理を持って職務を遂行していけるように、意識をさらに高めて行く。
		② 公文書の作成			A			
		③ 個人情報の管理・保護			A			
		④ 情報の収集			B			
		⑤ 電子媒体の管理			A			